

事業所名	児童デイサービスえがお		公表日			
			令和 8 年 2 月 16 日			
	チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点	
環境・体制整備	1	利用定員が発達支援室等のスペースとの関係で適切であるか。	7	0		
	2	利用定員やこどもの状態等に対して、職員の配置数は適切であるか。	3	4	特定の時間帯に重点的に職員を配置することで、柔軟な対応を図り、安全・安心な環境を提供している。	送迎の時間帯において、支援に入れる職員人数が十分でないと感じる場面がある。また利用児童数に応じた安全確保や個別対応のために、全員配置が難しい時間帯がある。
	3	生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっているか。また、事業所の設備等は、障害の特性に応じ、バリアフリー化や情報伝達等、環境上の配慮が適切になされているか。	7	0	視覚的なイラストやサインを活用して、情報が伝わりやすい環境づくりに配慮している。	
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、こども達の活動に合わせた空間となっているか。	7	0	毎日5分間の清掃やこまめな掃除を徹底している。これにより、整った清潔な環境が維持され、子どもたちが安心して過ごせるよう配慮している。	
	5	必要に応じて、こどもが個別の部屋や場所を使用することが認められる環境になっているか。	7	0	状況に応じて個別に使用できる部屋を設けており、これにより落ち着いて過ごせる環境が整いやすく、子ども一人ひとりのニーズに合った安心できる空間づくりができています。	
業務改善	6	業務改善を進めるためのPDCA サイクル（目標設定と振り返り）に、広く職員が参画しているか。	5	2	会議やミーティング、朝礼を通じて情報共有を行い、職員全体で認識を深めるよう努めている。	振り返りが十分にできていない状況があり、今後は定期的に振り返りの時間を設け、対応や改善点をしっかり確認する必要がある。
	7	保護者向け評価表により、保護者等の意向等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	7	0		
	8	職員の意見等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	7	0		
	9	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか。	6	1		
	10	職員の資質の向上を図るために、研修を受講する機会や法人内等で研修を開催する機会が確保されているか。	7	0		研修機会の活用に加え、職員同士での情報共有や実践を学び合う機会を増やし、知識や支援力の向上を図ってきたい。
適切な支援	11	適切に支援プログラムが作成、公表されているか。	7	0		
	12	個々のこどもに対してアセスメントを適切に行い、こどもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成しているか。	7	0		
	13	放課後等デイサービス計画を作成する際には、児童発達支援管理責任者だけでなく、こどもの支援に関わる職員が共通理解の下で、こどもの最善の利益を考慮した検討が行われているか。	7	0	各領域に基づいて担当を振り分け、それぞれの立場から子どもの状況を踏まえ、最善の利益を考慮した目標設定を行っている。	
	14	放課後等デイサービス計画が職員間に共有され、計画に沿った支援が行われているか。	7	0		
	15	こどもの適応行動の状況を、標準化されたツールを用いたフォーマルなアセスメントや、日々の行動観察なども含むインフォーマルなアセスメントを使用する等により確認しているか。	5	2	チェックリストや日々の経過観察を通して子どもの様子を把握し、その情報を基に継続的なアセスメントを行っている。	
	16	放課後等デイサービス計画には、放課後等デイサービスガイドラインの「放課後等デイサービスの提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」及び「地域支援・地域連携」のねらい及び支援内容も踏まえながら、こどもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか。	6	1		
	17	活動プログラムの立案をチームで行っているか。	4	3		主に担当職員が行い、その内容をチームに情報共有している。一方で、チーム全体で十分に検討・協議する機会は多くないと感じており、今後はよりチームでの話し合いの場を設ける必要がある。

援 の 提 供	18	活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか。	6	1		現在は遊びの内容や使用する玩具がある程度固定化している傾向があるため、今後はより多様な遊びを取り入れ、活動内容が偏らないよう工夫していきたい。
	19	こどもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ放課後等デイサービス計画を作成し、支援が行われているか。	7	0		
	20	支援開始前には職員間で必ず打合せを行い、その日行われる支援の内容や役割分担について確認し、チームで連携して支援を行っているか。	7	0		
	21	支援終了後には、職員間で必ず打合せを行い、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか。	4	3		支援終了後の振り返りは、必ず毎日実施できているわけではないが、子どもの大きな変化や重要な出来事については共有できていると感じている。当日に振り返りができない場合でも、翌日に共有する機会を設けるなど、情報共有に努めている。
	22	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか。	7	0		
	23	定期的にモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直し必要性を判断し、適切な見直しを行っているか。	7	0		
	24	放課後等デイサービスガイドラインの「4つの基本活動」を複数組み合わせ支援を行っているか。	6	1		
	25	こどもが自己選択できるような支援の工夫がされている等、自己決定する力を育てるための支援を行っているか。	7	0		
関 係 機 関 や 保 護 者 と の 連 携	26	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議や関係機関との会議に、そのこどもの状況をよく理解した者が参画しているか。	7	0		
	27	地域の保健、医療（主治医や協力医療機関等）、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携して支援を行う体制を整えているか。	6	1		現在、医療的ケアを必要とする対象児は在籍していないため、医療機関との直接的な連携は行っていない。今後、必要が生じた場合には、関係機関と連携しながら支援体制を整えていく必要があると考えている。
	28	学校との情報共有（年間計画・行事予定等の交換、こどもの下校時刻の確認等）、連絡調整（送迎時の対応、トラブル発生時の連絡）を適切に行っているか。	7	0		
	29	就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めているか。	7	0		該当者はいないため現時点での情報共有はないが、必要に応じて関係機関と連携できる体制を整えていきたい。
	30	学校を卒業し、放課後等デイサービスから障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等しているか。	5	2		該当者がいないため実施機会はないが、今後該当者がいる場合には関係機関との情報共有に努めたい。
	31	地域の児童発達支援センターとの連携を図り、必要等に応じてスーパーバイズや助言や研修を受ける機会を設けているか。	3	4		職員間での周知が十分でなく実施状況が分からないという意見が多かった。今後は、連携体制や実施状況の周知を図ることが必要と考える。
	32	放課後児童クラブや児童館との交流や、地域の他のこどもと活動する機会があるか。	0	7		計画的な交流機会はなく、公園で偶然関わることはあるが、継続的な交流には至っていない。同法人内事業所（第2・第3）との交流は行われている。
	33	（自立支援）協議会等へ積極的に参加しているか。	2	5		参加状況について職員への共有が十分でなく、実施の有無が分からないという意見が多かった。今後は、参加状況や内容について職員への周知を図ることが必要と考える。
	34	日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの発達の状況や課題について共通理解を持っているか。	7	0		
	35	家族の対応力の向上を図る観点から、家族に対して家族支援プログラム（ペアレント・トレーニング等）や家族等の参加できる研修の機会や情報提供等を行っているか。	0	7		現時点では実施していない状況である。今後は、保護者支援の充実に向けた取り組みの検討をしていきたい。
	36	運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか。	7	0		
	37	放課後等デイサービス提供を作成する際には、こどもや保護者の意思の尊重、こどもの最善の利益の優先考慮の観点を踏まえて、こどもや家族の意向を確認する機会を設けているか。	7	0		
	38	「放課後等デイサービス計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から放課後等デイサービス計画の同意を得ているか。	7	0		

保護者への説明等	39	家族等からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、面談や必要な助言と支援を行っているか。	7	0		
	40	父母の会の活動を支援することや、保護者会等を開催する等により、保護者同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。また、きょうだい同士で交流する機械を設ける等の支援をしているか。	0	7		保護者会や保護者・きょうだい同士の交流機会の提供は現時点では実施していない。
	41	子どもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応しているか。	7	0		
	42	定期的に通信等を発行することや、HPやSNS等を活用することにより、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信しているか。	7	0		
	43	個人情報の取扱いに十分留意しているか。	7	0		
	44	障害のある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか。	7	0		
	45	事業所の行事に地域住民を招待する等、地域に開かれた事業運営を図っているか。	2	5		地域との繋がりを深める機会づくりについて検討をしていきたい。
非常時等の対応	46	事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や家族等に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施しているか。	6	1		各種マニュアルは策定され職員への周知・訓練は実施しているが、家族への周知状況は分からないという意見があった。保護者への説明会の設定や連絡を活用した継続的な周知を行うことで、理解促進を図っていきたい。
	47	業務継続計画（BCP）を策定するとともに、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか。	7	0		
	48	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等の子どもの状況を確認しているか。	7	0	健康状況については事前に確認を行っている。特に服薬については服薬依頼書を活用し、職員間で情報共有を図りながら、間違いない対応に努めている。	
	49	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか。	5	2		該当者がいる場合には、医師の指示書に基づき適切に対応できる体制を整えていきたい。
	50	安全計画を作成し、安全管理に必要な研修や訓練、その他必要な措置を講じる等、安全管理が十分された中で支援が行われているか。	7	0	安全計画を作成し、避難訓練を実施するなど安全管理体制を整えている。	
	51	子どもの安全確保に関して、家族等との連携が図られるよう、安全計画に基づく取組内容について、家族等へ周知しているか。	6	1		家族への周知状況が共有されていないため、文書配布や掲示等により定期的に周知し連携が図れるよう強化が必要と考える。
	52	ヒヤリハットを事業所内で共有し、再発防止に向けた方策について検討をしているか。	7	0	ヒヤリハット報告書を作成し、会議や朝礼等で共有しながら再発防止策の検討を行っている。	
	53	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか。	7	0		
54	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載しているか。	6	1		現時点では、身体拘束を必要とする該当者はいない状況である。今後、やむを得ず身体拘束が必要となる場合には、組織的に検討・決定を行い、子どもや保護者へ十分に説明し同意を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載する体制を整えている。	

事業所名	児童デイサービスがお
------	------------

公表日 令和 8 年 2 月 16 日

利用児童数 : 16名 令和 8 年 1 月 20 日

回収数 13名 (家庭)

	チェック項目	はい	どちらとも いえない	いいえ	わからない	ご意見	ご意見を踏まえた対応
環境・体制整備	1 子どもの活動等のスペースが十分に確保されていると思いますか。	13	0	0	0	送っていただいた写真を見ると、いつも生き生きとした表情でのびのび活動ができていると思います。	温かいご意見をありがとうございます。今後子どもたちが安心してのびのびと活動できる環境づくりに努めてまいります。
	2 職員の配置数は適切であると思いますか。	11	1	0	1	職員さんは多いと感じます。	安全確保と個別支援の充実のため、基準を満たしたうえで必要な職員配置を行っています。今後も適切な体制づくりに努めてまいります。
	3 生活空間は、子どもにわかりやすく構造化された環境になっていると思いますか。また、事業所の設備等は、障害特性に応じて、バリアフリー化や情報伝達等への配慮が適切になされていると思いますか。	12	0	0	1		子どもたちが安心して過ごせるよう、活動スペースの区分けや視覚的な表示、動線の確保などを行い、わかりやすい環境づくりに努めております。また、障害特性に応じて危険箇所の配慮、視覚支援ツールの活用など、情報伝達への配慮を行っています。保護者の皆様十分に伝わっていない部分も受け止めております。今後は、環境設定の意図や配慮している点について、わかりやすくお伝えする機会を増やしてまいります。
	4 生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっていると思いますか。また、子ども達の活動に合わせた空間となっていると思いますか。	13	0	0	0	子どもが、とてもきれいにしていると褒めてくれます。	今後も子どもたちにとって安心して過ごせる環境づくりと清潔な空間の維持に努めてまいります。
適切な支援の提供	5 子どものことを十分に理解し、子どもの特性等に応じた専門性のある支援が受けられていると思いますか。	11	1	1	0		貴重なご意見をいただきありがとうございます。お子さまの特性理解や専門性のある支援について、「どちらともいえない」「いいえ」とのご回答があったことを真摯に受け止めております。当事業所では、個別支援計画の作成や日々の支援の中で、お子さま一人ひとりの特性や発達段階に応じた関わりを心がけておりますが、その支援内容や専門的視点について、保護者の皆様十分に伝わっていない可能性があることと認識しております。今後は「支援のねらいや専門的な視点、面談や連絡帳等でより丁寧に説明する」「モニタリングや面談の機会を活用し、保護者のご意見やご不安を共有する」「職員研修の継続により専門性の向上を図る」といった取り組みを通して、安心して支援を受けていただけるよう努めてまいります。引き続き、ご意見をいただきながらより良い支援体制づくりに取り組んでまいります。
	6 事業所が公表している支援プログラムは、事業所の提供する支援内容と合っていると思いますか。	13	0	0	0		
	7 子どものことを十分理解し、子どもと保護者のニーズや課題が客観的に分析された上で、放課後等デイサービス計画（個別支援計画）が作成されていると思いますか。	13	0	0	0		
	8 放課後等デイサービス計画には、放課後等デイサービスガイドラインの「放課後等デイサービスの提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」で示す支援内容から子どもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されていると思いますか。	12	1	0	0		放課後等デイサービス計画につきましては、ガイドラインに基づき「本人支援」「家族支援」「移行支援」の視点を踏まえながら、お子さまの状況に応じた支援項目と具体的な支援内容を設定しております。一方で、「どちらともいえない」とのご回答をいただいたことと、計画の内容や支援の意図について、保護者の皆様十分に分かりやすくお伝えできていない部分があると受け止めております。今後は、「個別支援計画の説明時に、各支援項目の目的や具体的な内容をより丁寧にお伝えする」「日々の連絡帳や面談等を通して、計画と実際の支援のつながりを分かりやすく共有する」「家族支援や移行支援の取り組みについても情報発信を充実させる」などの改善に努め、保護者の皆様支援内容をより理解していただけるよう取り組んでまいります。
	9 放課後等デイサービス計画に沿った支援が行われていると思いますか。	13	0	0	0		

	10	事業所の活動プログラムが固定化されないよう工夫されていると思いますか。	13	0	0	0		
	11	放課後児童クラブや児童館との交流や、地域の他のこどもと活動する機会がありますか。	7	1	0	5	地域の子どもと接する機会が少ない気がします。	現在は事業所内や法人内の交流を中心としています。今後は交流のあり方を検討するとともに、活動内容が分かりやすい伝わるよう努めています。
保護者への説明等	12	事業所を利用する際に、運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明がありましたか。	11	1	1	0		利用開始時には説明を行っています。今後はより分かりやすい説明や確認の機会を大切にしています。
	13	「放課後等デイサービス計画」を示しながら、支援内容の説明がなされましたか。	12	1	0	0		今後も支援計画の説明を丁寧に行うとともに、より分かりやすい説明の充実にも努めてまいります。
	14	事業所では、家族に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)や家族等も参加できる研修会や情報提供の機会等が行われていますか。	7	0	2	4	トレーニングを一緒にできたら良いと感じます。	現在は個別相談や日常の情報共有を中心とした家族支援を行っていますが、今後は保護者の皆さまのニーズを踏まえ、家族支援の機会について検討していきます。
	15	日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの健康や発達状況について共通理解ができていると思いますか。	12	0	1	0	様子を詳しく教えてもらえるので安心して通わせることができます。毎回、1日の様子を伝えてくれます。困りごとについても相談できています。	今後も送迎時の対話や日々の記録を通してお子さまの状況を丁寧に伝えるとともに、全ての保護者の皆さまとの共通理解のさらなる充実にも努めてまいります。
	16	定期的に、面談や子育てに関する助言等の支援が行われていますか。	12	1	0	0	困りごとがあれば助けてもらえています。保護者の話にも共感して聞いてもらえ、心が救われることがあります。ありがとうございます。	今後も保護者の皆さまに寄り添いながら、安心して相談できる支援を大切にしていきます。
	17	事業所の職員から共感的に支援をされていると思いますか。	12	1	0	0		今後もお子さまや保護者の皆さまの思いに寄り添った丁寧な関わりを大切に、職員間で支援姿勢の共有や研修を通じた意識向上を図りながら、安心して利用できる支援体制の維持・向上に努めてまいります。
	18	父母の会の活動の支援や、保護者会等の開催等により、保護者同士の交流の機会が設けられるなど、家族への支援がされているか。また、きょうだい向けのイベントの開催等により、きょうだい同士の交流の機会が設けられるなど、きょうだいへの支援がされていますか。	2	1	4	6	父母同士の交流はないと感じています。兄弟児向けの機会がないと感じています。同じ学校の保護者との交流は自然に生まれているため特に不満や困りを感じたことはありません。	現在は個別相談を中心に支援を行っていますが、今後は保護者の皆さまのニーズを踏まえ、交流のあり方について検討していきます。
	19	こどもや家族からの相談や申入れについて、対応の体制が整備されているとともに、こどもや保護者に対してそのような場があることについて周知・説明され、相談や申入れをした際に迅速かつ適切に対応されていますか。	11	0	1	1		日常的な相談対応や面談等を通して支援を行っています。今後は相談体制や対応方法についてより分かりやすい周知を行うとともに、安心して相談できる環境づくりのさらなる充実にも努めてまいります。
	20	こどもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮がなされていると思いますか。	11	1	0	1		送迎時の対話や連絡帳等を通して情報共有を行っています。今後は状況に応じた伝達方法の工夫や確認の機会を充実させ、より分かりやすい情報共有に努めてまいります。
	21	定期的に通信やホームページ・SNS等で、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報や業務に関する自己評価の結果をこどもや保護者に対して発信されていますか。	11	1	0	1		今後は保護者の皆さまがより分かりやすく情報を受け取れるよう、発信方法や内容の工夫を行い、周知の充実にも努めてまいります。
	22	個人情報の取扱いに十分に留意されていると思いますか。	12	0	0	1		今後も安心して利用していただけるよう、個人情報の管理と分かりやすい説明に努めてまいります。
	非常時等の対応	23	事業所では、事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等が策定され、保護者に周知・説明されていますか。また、発生を想定した訓練が実施されていますか。	12	0	0	1	
24		事業所では、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練が行われていますか。	12	0	0	1		今後も避難訓練や防災対策を継続して実施するとともに、取り組み内容について分かりやすく周知し、安心して利用できる環境づくりに努めてまいります。
25		事業所より、こどもの安全を確保するための計画について周知される等、安全の確保が十分に行われた上で支援が行われていると思いますか。	12	0	0	1	広い環境で楽しく安全に遊べていると感じています。	今後も安全計画に基づく支援を継続するとともに、取り組み内容や安全確保の具体的な方法について分かりやすく周知し、安心して利用できる環境づくりのさらなる充実にも努めてまいります。
26		事故等(怪我等を含む。)が発生した際に、事業所から速やかな連絡や事故が発生した際の状況等について説明がされていると思いますか。	10	1	0	2	これまで特に事故が起きていないため分らないです。	今後も事故防止に努めるとともに、万一の際には速やかにご連絡・ご説明を行う体制を大切にしていきます。
満足度	27	こどもは安心感をもって通所していますか。	12	1	0	0	不安の強い息子が、楽しそうに安心して通所しています。	今後も子ども一人ひとりの気持ちに寄り添い、安全で安心できる環境づくりを継続するとともに、不安が見られる場合には早期に状況を把握し、保護者の皆さまと連携しながら丁寧な対応に努めてまいります。
	28	こどもは通所を楽しみにしていますか。	13	0	0	0	行きしぶりがなく通えています。子どもが明日の通所を楽しみにしている様子が見られます。	今後も子どもたちが安心して主体的に通所できる環境づくりを継続するとともに、一人ひとりの興味や関心に応じた支援を行い、通所を楽しみにできる関係づくりを大切にしていきます。

29	事業所の支援に満足していますか。	12	1	0	0	<p>いつも子どもや保護者に寄り添った支援をしていただき、満足しています。通所後に宿題に取り組む姿が見られ助かっています。子どもの興味に合わせた活動が取り入れられているので嬉しいです。</p>	<p>今後も子ども一人ひとりの特性や興味に応じた支援を継続するとともに、保護者の皆さまの思いに寄り添った関わりを大切にしながら、より安心して利用できる支援体制の維持・向上に努めてまいります。</p>
----	------------------	----	---	---	---	--	---

公表

事業所における自己評価総括表（放課後等デイサービス）

○事業所名	児童デイサービスえがお			
○保護者評価実施期間	令和7年4月1日	～	令和7年11月30日	
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	14名（家庭）	(回答者数)	13名（家庭）
○従業者評価実施期間	令和7年4月1日	～	令和7年11月30日	
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	7名	(回答者数)	7名
○事業者向け自己評価表作成日	令和8年1月31日			

○ 分析結果

	事業所の強み（※）だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	視覚支援の活用や個別空間の確保等により、子どもが見通しを持ち安心して主体的に活動できる環境が体系的に整備されている。	視覚的なイラストやサインを活用した構造化環境の整備により、子どもが見通しを持って安心して活動できる環境が整えられている。また、個別室の活用や清掃の徹底により、情緒の安定と安全性の確保が図られており、子どもの状態に応じた環境調整が意識的に行われている。	今後は発達段階に応じた視覚支援の個別化や環境調整の共有を進めることで、さらなる支援の質向上を図っていく。
2	アセスメントやモニタリングを基に、子どもの特性や発達段階に応じた個性の高い支援が組織的に実施されている。	全職員でアセスメント内容を共有し、各領域の視点から支援を検討する体制が整えられており、多面的かつ継続的な支援につながっている。また、子どもの興味関心や課題に応じた活動調整が行われており、主体性を育む支援が実践されている。	今後はフォーマルアセスメントの活用や支援事例の共有を進めることで、さらなる支援力の向上を図っていく。
3	日常的な情報共有や相談対応により、保護者との信頼関係が構築されている。	送迎時の対話や連絡帳、面談等を通じて日常的な情報共有が行われており、保護者との信頼関係が構築されている。また、学校との連携や関係機関との情報共有が適切に行われ、子どもの状況に応じた継続的な支援体制が整えられている。	今後は家族支援の充実や安全計画の周知強化を図ることで、より安心できる支援環境の構築を目指していく。

	事業所の弱み（※）だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	PDCAサイクル・振り返り体制の弱さ	援後の振り返りや記録入力については、業務優先により十分な時間確保が難しく、PDCAサイクルが十分に機能していない状況が見られる。記録の定着が個人に依存しやすく、改善の共有が十分に行われていないことが要因と考えられる。	今後は短時間でも定例の振り返り機会を設けるとともに、記録様式の整理や入力ルールの明確化を行い、組織的な業務改善体制の強化を図っていく。
2	チームによる支援検討の不足	活動プログラムの立案が担当職員中心となる傾向があり、チーム全体での検討や協議の機会が十分に確保されていない状況が見られる。また、支援技術の共有が体系化されていないことも課題の要因と考えられる。	今後は活動検討会議の定例化や支援事例の共有機会を設けることで、チーム支援の充実を図っていく必要がある。
3	地域連携・家族支援の不足	地域との交流機会や保護者・きょうだい支援の取り組みについては、現時点では体系的な実施に至っておらず、職員間の周知も十分とはいえない状況が見られる。これは交流機会の不足や支援体制の整備が段階的であることが要因と考えられる。	今後は法人内事業所との交流の拡充や家族支援の場の検討、連携体制の周知強化を進めることで、地域とつながる支援の充実を図っていく。

事業所名		児童デイサービスえがお		公表日		令和 8 年 2 月 16 日	
		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点	
環境・体制整備	1	利用定員が発達支援室等のスペースとの関係で適切であるか。	7	0	活動内容に応じて机配置やスペースの使い分けを行い、見通しを持って安全に活動できる環境づくりを心掛けている。		
	2	利用定員やこどもの状態等に対して、職員の配置数は適切であるか。	6	1	児童の状況に応じて役割分担を明確にし、活動内容や配置場所を工夫することで、安全確保と支援の質の維持に努めている。	児童の状態や利用人数の変動に応じて、より柔軟な職員配置や応援体制の整備について検討を継続していく必要がある。	
	3	生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっているか。また、事業所の設備等は、障害の特性に応じ、バリアフリー化や情報伝達等、環境上の配慮が適切になされているか。	7	0	生活空間については、子どもにとって分かりやすい構造化された環境づくりが行われている。活動内容をホワイトボード等で視覚的に提示することで、見通しを持ちやすくし、活動の切り替えを促しやすい環境を整えている。また、耳からの情報のみでは理解が難しい児童も多いため、イラストや文字を用いて分かりやすく示すなど、障害特性に応じた情報伝達の工夫を行っている。職員間でも情報共有を意識し、環境設定や支援方法の統一に努めている。		
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、こども達の活動に合わせた空間となっているか。	7	0	毎日の5分間清掃を実施することで、日常的に整理整頓や衛生管理が意識され、清潔感の維持につながっている。		
	5	必要に応じて、こどもが個別の部屋や場所を使用することが認められる環境になっているか。	7	0	必要に応じて子どもが個別の部屋や場所を使用できる環境が整っている。個室が複数確保されており、用途に応じて柔軟に活用することができている。個別支援活動の際には落ち着いた環境で取り組むことができ、活動への集中や理解の促進につながっている。また、気持ちを落ち着けたい時や情緒面への配慮が必要な場面でも個別の場所を使用しており、安心して過ごせる環境となっている。さらに、お昼寝用の部屋も確保されており、子どもの状態に応じた休息が可能である。		
業務改善	6	業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画しているか。	5	2	朝礼等で目標を共有し、職員全体で意識を揃えながら業務に取り組んでいる。	日々の業務後や定期的な機会を設け、個人およびチームでの振り返りを行う仕組みづくりを進め、PDCAサイクルをより実効性のあるものにしていく必要がある。	
	7	保護者向け評価表により、保護者等の意向等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	6	1	相談日や会議での対話を大切にし、保護者の思いや意見を丁寧に聞き取ることで、支援に活かすよう努めている。	評価表を用いて保護者の意向や意見を把握する機会を設けている。これにより、保護者の思いやニーズをより明確に理解し、支援内容や業務改善につなげていく取り組みを進めている。	
	8	職員の意見等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	7	0	提案シートを通して職員の声を可視化し、業務改善に向けた意識づくりや共有を図っている。	面談や提案内容の検討・実施状況のフィードバックを丁寧にし、職員が取り組みの成果を実感できる仕組みづくりを進めていく必要がある。	
	9	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか。	5	2		第三者評価の実施有無や内容、結果の活用方法について職員へ周知し、業務改善につなげていく体制づくりを進めていく必要がある。	
	10	職員の資質の向上を図るために、研修を受講する機会や法人内等で研修を開催する機会が確保されているか。	7	0	外部研修や内部研修を通して職員のスキル向上を図り、支援の質の向上に努めている。	研修で得た知識や技術を職員間で共有し合う仕組みを整え、実践につなげていく取り組みをさらに進めていく必要がある。	
	11	適切に支援プログラムが作成、公表されているか。	7	0	活動予定表や個別支援計画を活用し、支援内容や目標を分かりやすく伝える工夫を行っている。	支援プログラムの周知方法について、より分かりやすく伝える工夫や共有の機会を継続して検討していく必要がある。	
	12	個々のこどもに対してアセスメントを適切に行い、こどもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、児童発達支援計画を作成しているか。	7	0	アセスメントやモニタリングの内容を職員間で共有し、チームとして課題の検討や支援方針の統一を図っている。	継続的な情報共有や評価の視点にさらに深め、より個別性の高い支援計画の作成につなげていく必要がある。	
	13	児童発達支援計画を作成する際には、児童発達支援管理責任者だけでなく、こどもの支援に関わる職員が共通理解の下で、こどもの最善の利益を考慮した検討が行われているか。	7	0	アセスメントやモニタリングを全職員で共有し、5領域の視点に基づき、各担当が子どもの成長のために必要な支援や関わりを検討することで、多角的な視点から子どもの最善の利益を考慮した計画づくりにつながっている。	今後も職員間の意見交換の機会を継続的に確保し、より一層の共通理解と支援の質の向上につなげていく必要がある。	
	14	児童発達支援計画が職員間に共有され、計画に沿った支援が行われているか。	7	0	会議の場を活用し、計画内容や支援のポイントを確認しながら職員間の理解を深めている。	会議以外の場面でも計画の再確認や情報共有を行い、より継続的に支援の統一を図っていく必要がある。	
	15	こどもの適応行動の状況を、標準化されたツールを用いたフォーマルなアセスメントや、日々の行動観察なども含むインフォーマルなアセスメントを使用する等により確認しているか。	5	2	日常の支援の中で子どもの行動や変化を丁寧に観察し、記録や情報共有を通して支援に活かすよう努めている。	アセスメントの種類や目的について職員への理解を深めるとともに、標準化されたツールの活用や評価方法の整理を進め、より客観的な評価体制を整えていく必要がある。	

適切な支援の提供	16	児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」及び「地域支援・地域連携」のねらい及び支援内容も踏まえながら、こどもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか。	6	1	個々の子どもの課題やニーズに応じた具体的な支援内容の設定に努めている。	ガイドラインに基づく支援項目の意義や内容について職員への理解を深めるとともに、本人支援だけでなく家族支援・移行支援・地域連携の視点を計画作成時により明確に反映していく必要がある。
	17	活動プログラムの立案をチームで行っているか。	6	1	担当者が児童の状況や支援目標を踏まえながら活動内容を検討し、日々の支援に反映している。	職員間で意見交換を行う機会を増やし、チームとして活動プログラムを検討・共有する体制づくりを進めていく必要がある。
	18	活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか。	6	1	子どもの興味関心や状況に応じて活動内容を柔軟に見直し、変化を持たせるよう努めている。	活動プログラムについては固定化しないよう意識して工夫しているが、一方で継続的に定着している活動が少なく、計画的な積み重ねが十分とは言えない。活動の目的やねらいを明確にし、継続的な取り組みとして定着させながら、計画性と柔軟性のバランスを図っていく必要がある。
	19	こどもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせる児童発達支援計画を作成し、支援が行われているか。	6	1	個別支援を軸としながらも、必要に応じて小集団での活動を取り入れ、社会性や対人関係の育成につながるよう配慮している。	利用人数が少人数であるため、実際の支援は個別活動が中心となっている。個々の特性や課題に応じた関わりが行いやすい環境であり、児童発達支援計画に基づいた支援の実施につながっている。児童の状況や人数に応じて、集団活動の機会や内容をさらに工夫し、個別支援とのバランスを図っていく必要がある。
	20	支援開始前には職員間で必ず打合せを行い、その日行われる支援の内容や役割分担について確認し、チームで連携して支援を行っているか。	7	0		
	21	支援終了後には、職員間で必ず打合せを行い、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか。	4	3	朝礼の場を活用し、気づいた点や支援上の注意事項を発信・共有するよう努めている。	支援後の振り返りについては、当日中に必ず実施できている状況ではなく、後日や翌日の朝礼で気づきや支援の状況を共有していることが多い。大きな変化や注意すべき点については共有が図られているが、日々の細かな振り返りが継続的に行われているとは言えない。支援終了後に短時間でも振り返りを行う仕組みを整え、気づきや支援のポイントをその日のうちに共有できる体制づくりを進めていく必要がある。
	22	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか。	6	1	支援の気づきや児童の変化を記録し、職員間で共有することで支援の質向上に活かすよう努めている。	日々の記録を継続的に蓄積し、支援の検討や改善に活用できる体制を整えていく必要がある。
23	定期的にモニタリングを行い、児童発達支援計画の見直しの必要性を判断し、適切な見直しを行っているか。	7	0	定期的にモニタリングを実施し、子どもの発達状況や課題の変化を確認しながら、児童発達支援計画の見直しの必要性を判断し、適切に見直しを行うことができている。		
関係機関や保護者との連携	24	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議や関係機関との会議に、そのこどもの状況をよく理解した者が参画しているか。	7	0	会議内容については参加職員からの報告や情報共有を行い、支援に活かすよう努めている。	児童理解の深い職員が優先的に参画できる体制を整えるとともに、事前の情報整理や会議後の共有をより充実させていく必要がある。
	25	地域の保健、医療（主治医や協力医療機関等）、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携して支援を行う体制を整えているか。	5	2	必要に応じて関係機関との情報共有を行い、支援に活かすよう努めている。	地域の保健医療機関や主治医、協力医療機関等との連携体制については、職員個々が十分に把握できている状況とは言えない。また、地域の保健医療との具体的な連携の機会についても認識が十分ではない状況がある。関係機関との連携体制や役割について職員への周知を進めるとともに、地域の保健医療機関等との連携のあり方を整理し、より実効性のある体制づくりを進めていく必要がある。
	26	併行利用や移行に向けた支援を行うなど、インクルージョン推進の観点から支援を行っているか。また、その際、保育所や認定こども園、幼稚園、特別支援学校(幼稚部)等との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っているか。	7	0		
	27	就学時の移行の際には、小学校や特別支援学校(小学部)との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っているか。	7	0		
	28	(28～30は、センターのみ回答) 地域の他の児童発達支援センターや障害児通所支援事業所等と連携を図り、地域全体の質の向上に資する取組等を行っているか。				
	29	質の向上を図るため、積極的に専門家や専門機関等から助言を受けたり、職員を外務研修に参加させているか。				
30	(自立支援)協議会こども部会や地域の子ども・子育て会議等へ積極的に参加しているか。					
31	(31は、事業所のみ回答) 地域の児童発達支援センターとの連携を図り、必要に応じてスーパーバイズや助言等を受ける機会を設けているか。	1	6	必要に応じて関係機関との連携を図る意識は持たれている。	地域の児童発達支援センターとの連携や、スーパーバイザー等から助言を受け取る機会については、職員間で十分に把握されていない。	

	32	保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、地域の中で他のこどもと活動する機会があるか。	0	7		保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、地域の子どもの活動機会については、実施できていない状況である。一方で、法人内の第2・第3事業所との交流については、今後さらに機会を増やし子どもが多様な関わりを経験できる環境づくりを進めていく必要がある。
	33	日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの発達状況や課題について共通理解を持っているか。	7	0	日頃から子どもの様子や支援の状況について保護者と伝え合う機会を設けており、子どもの発達状況や課題について共通理解を持ちながら支援を行うことができている。連絡帳や送迎時のやり取り等を通して、継続的な情報共有が図られている。	
	34	家族の対応力の向上を図る観点から、家族に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)や家族等の参加できる研修の機会や情報提供等を行っているか。	0	7	日常の相談対応や情報共有を通して、個別的な助言や支援につながる関わりは行っている。	家族の対応力向上を目的とした家族支援プログラムやペアレントトレーニング、保護者向け研修等については、現状では実施できていない。今後は保護者が参加できる研修機会の検討や、家族支援の体系的な取り組みについて検討を進め、家族の対応力向上につながる支援体制を整えていく必要がある。
保護者への説明等	35	運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか。	6	1	契約時や必要に応じた説明を通して、保護者へ情報提供を行うよう努めている。	運営規程や支援プログラム、利用者負担等については、説明の機会は設けられているが、具体的な説明の内容や方法について十分に把握できていない。説明内容や手順について職員間で共有していく必要がある。
	36	児童発達支援計画を作成する際には、こどもや保護者の意思の尊重、こどもの最善の利益の優先考慮の観点を踏まえて、こどもや家族の意向を確認する機会を設けているか。	7	0	アセスメントおよびモニタリングを継続的に実施しており、日々の観察や記録、保護者との情報共有を通して状況を把握し、職員間で共有しながら支援内容の見直しに活かしている。子どもの発達状況や課題の変化を確認しながら支援につなげることもできている。	
	37	「児童発達支援計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から児童発達支援計画の同意を得ているか。	7	0	面談等の機会を通して計画内容を説明し、保護者の意見や思いを確認しながら支援に反映している。	保護者がより理解しやすい伝え方の工夫を検討していく必要がある。
	38	定期的に、家族等からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、面談や必要な助言と支援を行っているか。	7	0	保護者相談日や日常のやり取りを通して、保護者が安心して相談できる関係づくりを大切に、子どもの状況に応じた助言を行っている。	今後も相談しやすい環境づくりを継続し、保護者のニーズに応じた支援の充実を図っていく必要がある。
	39	父母の会の活動を支援することや、保護者会等を開催する等により、保護者同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。また、きょうだい同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。	0	7		保護者会の開催や保護者同士、兄弟同士の交流機会を設ける取り組みについては、現状では実施できていない状況である。今後は保護者同士が情報交換や交流できる機会の検討や、兄弟児を含めた交流のあり方について検討を行う。
	40	こどもや保護者からの相談や申入れについて、対応の体制を整備するとともに、こどもや保護者に周知し、相談や申入れがあった場合に迅速かつ適切に対応しているか。	7	0	送迎時や面談の機会を活用し、相談しやすい関係づくりと迅速な対応に努めている。	
	41	定期的に通信等を発行することや、HPやSNS等を活用することにより、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報をこどもや保護者に対して発信しているか。	7	0	定期的に通信を発行するとともに、SNS等を活用しながら、活動概要や行事予定の情報発信を行うことができている。	継続して情報発信の充実を図るとともに、保護者にとってより見やすく分かりやすい発信方法を検討していく必要がある。
	42	個人情報の取扱いに十分留意しているか。	7	0	十分に留意しながら管理を行っており、特に活動写真については定期的に消去するなど、適切な管理に努めている。	
	43	障害のあるこどもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか。	7	0	視覚的な提示や分かりやすい言葉の使用、連絡帳や面談等を通じた丁寧な説明など、それぞれの状況に応じた伝達方法を工夫している。	
	44	事業所の行事に地域住民を招待する等、地域に開かれた事業運営を図っているか。	0	7	日常的な地域との関わりを大切に、周辺環境への配慮や理解促進に努めている。	事業所の行事に地域住民を招待するなど、地域に開かれた事業運営については、現状では実施できていない状況である。
非常時等の対応	45	事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や家族等に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施しているか。	1	6	避難訓練を定期的に実施し、緊急時を想定した対応の確認を行っている。	各種マニュアルの内容や周知状況については十分に把握されていない部分があり、特に防犯マニュアルの内容や保護者への周知状況については訓練や理解の機会を充実させていく必要がある。
	46	業務継続計画(BCP)を策定するとともに、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか。	7	0	定期的な訓練を通して、職員が災害時の対応手順を確認し、安全確保への意識向上に努めている。	訓練内容の見直しや職員への周知を行い、実効性の高い災害対応体制の維持・向上を図っていく必要がある。
	47	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等のこどもの状況を確認しているか。	7	0	保護者からの聞き取りや記録を通して健康情報を把握し、職員間で共有しながら支援に活かしている。	継続して情報の更新と共有を行い、より安全に配慮した支援体制の維持に努めていく必要がある。
	48	食物アレルギーのあるこどもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか。	5	2	アレルギー情報を事前に確認し、職員間で共有することで、誤食防止や安全確保に努めている。	情報の更新や共有を徹底し、継続して安全管理体制の維持・向上を図っていく必要がある。
	49	安全計画を作成し、安全管理に必要な研修や訓練、その他必要な措置を講じる等、安全管理が十分された中で支援が行われているか。	7	0	定期的な研修や訓練を通して職員の安全意識の向上を図り、日常的な危険予測や事故防止に努めている。	継続して安全対策の見直しや職員への周知を行い、より高い安全管理体制の維持・向上を図っていく必要がある。
	50	こどもの安全確保に関して、家族等との連携が図られるよう、安全計画に基づく取組内容について、家族等へ周知しているか。	6	1	安全管理に関する取り組みは実施されており、必要に応じて保護者への説明を行う意識は持たれている。	安全計画の内容や周知方法について職員間で共有を進めるとともに、保護者へ分かりやすく伝える機会を明確にしておく必要がある。

51	ヒヤリハットを事業所内で共有し、再発防止に向けた方策について検討をしているか。	7	0	ヒヤリハット事例については、朝礼等で共有するとともに報告書を作成・保管し、事業所内で情報共有を図っている。記録として残すことで、後から振り返りや再発防止の検討につなげることができている。	
52	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか。	7	0	研修を通して虐待防止に関する知識の習得や対応方法の確認を行い、安全で安心できる支援の提供につなげている。	
53	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、児童発達支援計画に記載しているか。	6	1	身体拘束を行わない支援を基本とし、予防的な関わりや環境調整に努めている。	やむを得ず身体拘束を行う場合の基準については、組織的に方針が定められており、該当する場合には事前に子どもや保護者へ十分な説明を行い、同意を得た上で児童発達支援計画に記載する体制が整えられている。なお、現時点では該当者はない状況である。

事業所名	児童デイサービスえがお
------	-------------

公表日 令和 8 年 2 月 16 日

利用児童数 : 5名 令和 8 年 1 月 20 日

回収数 4名

	チェック項目	はい	どちらとも いえない	いいえ	わからない	ご意見	ご意見を踏まえた対応
環境・ 体制 整備	1 こどもの活動等のスペースが十分に確保されていると思いますか。	4	0	0	0	確保されていると思います。	今後も活動内容や子どもの特性に応じたスペースの使い分けを行い、安全で安心して過ごせる環境整備の維持・向上に努めていきます。
	2 職員の配置数は適切であると思いますか。	4	0	0	0		
	3 生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっていると思いますか。また、事業所の設備等は、障害特性に応じて、バリアフリー化や情報伝達等への配慮が適切になされていると思いますか。	4	0	0	0	分かりやすい環境が整っており良いと思います。	今後も視覚支援の活用や環境調整を継続し、子ども一人ひとりの特性に応じて見通しを持ち安心して活動できる環境づくりの維持・向上に努めていきます。
	4 生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっていると思いますか。また、こども達の活動に合わせた空間となっていると思いますか。	4	0	0	0		
適切 な 支 援 の 提 供	5 こどものことを十分に理解し、こどもの特性等に応じた専門性のある支援が受けられていると思いますか。	4	0	0	0	受けられていると思います。	今後もアセスメントやモニタリングを通して子どもの特性や発達状況の把握に努めるとともに、職員の専門性の向上を図りながら、個別性の高い支援の継続と質の向上に取り組んでいきます。
	6 事業所が公表している支援プログラムは、事業所の提供する支援内容と合っていると思いますか。	4	0	0	0	実際の支援内容と合っていると思います。	今後も支援プログラムと実際の支援内容の整合性を維持するとともに、分かりやすい情報発信を通して保護者との共通理解の深化に努めていきます。
	7 こどものことを十分理解し、こどもと保護者のニーズや課題が客観的に分析された上で、児童発達支援計画（個別支援計画）が作成されていると思いますか。	4	0	0	0		
	8 児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」で示す支援内容からこどもの支援に必要な項目が適切に選択され、その上で、具体的な支援内容が設定されていると思いますか。	4	0	0	0	子どもの状況に応じた支援内容が具体的に設定されていると思います。	今後もアセスメントやモニタリングを通して子どもの発達状況や課題の把握に努め、保護者との共有を図りながら、具体性と実効性のある支援内容の充実に取り組んでいきます。
	9 児童発達支援計画に沿った支援が行われていると思いますか。	4	0	0	0		
	10 事業所の活動プログラムが固定化されないよう工夫されていると思いますか。	3	1	0	0		今後は活動の工夫やねらいが分かりやすく伝わるよう、情報発信を工夫していきます。
	11 保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、その他地域で他のこどもと活動する機会がありますか。	2	0	0	2		今後は交流の機会のあり方を検討するとともに、取り組み内容が分かりやすく伝わるよう努めていきます。
保 護 者 へ の	12 事業所を利用する際に、運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明がありましたか。	3	1	0	0		今後はより分かりやすい説明を行い、安心して利用していただけるよう努めていきます。
	13 「児童発達支援計画」を示しながら、支援内容の説明がなされましたか。	4	0	0	0	毎回いただいています。	今後も支援計画の説明を丁寧に行うとともに、保護者の意向や意見を踏まえながら、共通理解のちと支援を進めていきます。
	14 事業所では、家族に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)や家族等も参加できる研修会や情報提供の機会等が行われていますか。	3	1	0	0		現在は個別相談を中心に行っていますが、今後は情報提供や家族支援の機会について検討し、分かりやすくお伝えしていきます。
	15 日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの健康や発達の状況について共通理解ができていますか。	4	0	0	0		
	16 定期的に、面談や子育てに関する助言等の支援が行われていますか。	4	0	0	0		
	17 事業所の職員から共感的に支援をされていると思いますか。	4	0	0	0		

の 説 明 等	18	父母の会の活動の支援や、保護者会等の開催等により、保護者同士の交流の機会が設けられるなど、家族への支援がされているか。また、きょうだい向けのイベントの開催等により、きょうだい同士の交流の機会が設けられるなど、きょうだいへの支援がされていますか。	0	1	0	3	保護者同士の交流をしたことがないので分かりません。	現在は個別の相談対応を中心に行っていますが、今後は交流の機会について検討し、必要な情報が分かりやすく伝わるよう努めていきます。
	19	子どもや家族からの相談や申入れについて、対応の体制が整備されているとともに、子どもや保護者に対してそのような場があることについて周知・説明され、相談や申入れをした際に迅速かつ適切に対応されていますか。	4	0	0	0	対応していただいています。	今後も支援計画の説明を丁寧に行うとともに、保護者の意向や意見を踏まえながら、共通理解のもと支援を進めていきます。
	20	子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮がなされていると思いますか。	4	0	0	0		
	21	定期的に通信やホームページ・SNS等で、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報や業務に関する自己評価の結果を子どもや保護者に対して発信されていますか。	4	0	0	0		
	22	個人情報の取扱いに十分に留意されていると思いますか。	4	0	0	0	十分に留意されていると思います。	今後も個人情報の適切な管理と職員への意識啓発を継続し、安全で信頼される支援体制の維持に努めていきます。
非 常 時 等 の 対 応	23	事業所では、事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等が策定され、保護者に周知・説明されていますか。また、発生を想定した訓練が実施されていますか。	4	0	0	0		
	24	事業所では、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練が行われていますか。	4	0	0	0		
	25	事業所より、子どもの安全を確保するための計画について周知される等、安全の確保が十分に行われた上で支援が行われていると思いますか。	4	0	0	0	安全に配慮された支援が行われていると思います。	今後も安全計画に基づく取り組みを継続するとともに、保護者の皆さまへの周知方法の充実を図り、安全管理体制についてより分かりやすく伝えていけるよう努めていきます。
	26	事故等（怪我等を含む。）が発生した際に、事業所から速やかな連絡や事故が発生した際の状況等について説明がされていると思いますか。	4	0	0	0		
満 足 度	27	子どもは安心感をもって通所していますか。	4	0	0	0	安心して通所できています。	これからも子どもたちが安心して過ごせる環境づくりを大切にしています。
	28	子どもは通所を楽しみにしていますか。	4	0	0	0	通所を楽しみにしています。	これからも子どもたちが楽しく通えるよう、魅力ある活動づくりを大切にしています。
	29	事業所の支援に満足していますか。	4	0	0	0	満足しています。	今後も一人ひとりに寄り添った支援を大切に、安心して利用していただける事業所づくりを続けていきます。

○事業所名	児童デイサービスがお		
○保護者評価実施期間	令和7年4月1日	～	令和7年11月30日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	5名	(回答者数) 4名
○従業者評価実施期間	令和7年4月1日	～	令和7年11月30日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	7名	(回答者数) 7名
○事業者向け自己評価表作成日	令和8年1月31日		

○ 分析結果

	事業所の強み（※）だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	視覚支援の活用や個別空間の確保等により、子どもが安心して見通しを持ち主体的に活動できる環境整備が体系的に行われている。	子どもが見通しを持って安心して過ごせるよう、活動内容をホワイトボードや絵カード等で視覚的に提示し、スケジュールの構造化を行っている。また、個々の特性や情緒面に配慮し、個別活動やクールダウンができる個室を用途に応じて活用するなど、環境調整を意図的に行っている。さらに、活動の切り替えが苦手な子どもに対しては視覚的な手がかりを用いることで、不安の軽減と主体的な行動を促す支援を継続している。	現在の視覚支援や個別空間の活用に加え、子どもの発達段階や特性に応じた個別の視覚支援ツールの充実を図るとともに、職員間で支援方法の共有をより体系的に行っていく。また、環境設定の工夫について定期的に振り返りの機会を設け、子どもの主体性や自己調整力の向上につながる支援の質の向上を目指していく。
2	少人数体制の特性を活かし、個々の発達特性やニーズに応じた個別性の高い丁寧な支援を継続的に実施できている。	少人数体制の特性を活かし、職員が子ども一人ひとりの特性や発達段階を丁寧に把握しながら、個別活動を中心とした支援を行っている。日々の観察やモニタリングを通して小さな変化を捉え、支援方法を柔軟に調整することで、安心感の中で主体的な活動参加を促す関わりを意図的に実施している。	今後は個別支援の実践事例を職員間で共有し、支援の工夫や関わり方の標準化を進めるとともに、小集団活動の機会を適切に取り入れ、社会性や対人関係の発達につながる支援の充実を図っていく。
3	アセスメント・モニタリングの全職員共有および保護者との密な情報連携により、支援計画に基づく一貫性のある支援体制が確立されている。	アセスメントやモニタリングの内容を全職員で共有し、多角的な視点から支援計画の検討を行っている。また、連絡帳や送迎時の対話、面談を通して保護者との継続的な情報共有を行い、子どもの生活全体を踏まえた一貫性のある支援につなげている。	今後は支援後の振り返りや記録の活用をより体系化し、支援の質の向上につなげるとともに、保護者支援の機会や相談体制の充実を図り、家庭と事業所がより協働できる支援体制の強化を目指していく。

	事業所の弱み（※）だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	支援後の振り返りや記録の定着を通じ、PDCAサイクルの実効性をさらに高めていく必要がある。	支援後の振り返りや記録入力の定着が十分でない要因として、日々の支援業務を優先する中で振り返りの時間確保が難しいことや、記録の目的や活用方法についての職員間の共通理解が十分に浸透していないことが挙げられる。また、振り返りを行う仕組みが明確に定められていないことも影響していると考えられる。	今後は、短時間でも当日中に振り返りを行う仕組みを整備するとともに、記録の意義や活用方法について職員への周知を進め、支援改善に結びつく記録の活用を促進していく。また、朝礼や会議を活用した継続的な共有体制を整えることで、PDCAサイクルの実効性の向上を図っていく。
2	活動プログラムの組織的検討および継続的な体系化を進め、支援の質のさらなる向上を図る必要がある。	活動プログラムについては担当職員中心で立案されることが多く、チームでの体系的な検討や共有の機会が十分に確保されていない要因として、日々の業務の中で職員が個別支援に集中する傾向があることや、活動検討を組織的に行う仕組みが明確に定められていないことが挙げられる。また、活動のねらいや評価の視点について職員間で共有する機会が限定的であることも影響していると考えられる。	今後は、定期的に活動検討の時間を設けるとともに、活動の目的や支援目標をチームで共有する仕組みを整備し、組織的な活動立案を進めていく。また、活動の振り返りを行い、支援効果を検証しながら継続的な改善につなげることで、計画性と一貫性のある活動プログラムの充実を図っていく。
3	関係機関・地域との連携体制および家族支援の充実を図り、より開かれた支援体制の構築を目指す必要がある。	関係機関との連携体制や家族支援の取り組みについては、日常の個別相談や必要時の連絡は行っているものの、組織的・体系的に実施する機会が十分に確保されていない要因として、支援業務が事業所内の直接支援に重点を置きやすいことや、連携内容や支援方法に関する職員間の周知が十分に行き届いていないことが挙げられる。また、保護者同士の交流機会や家族支援プログラムの実施体制が整備途上であることも影響していると考えられる。	今後は、関係機関との連携体制や役割を職員間で明確に共有するとともに、相談支援や情報交換の機会を計画的に設定していく。また、保護者支援や交流機会のあり方について検討を進め、家庭と事業所が協働して子どもの成長を支える体制の充実を図っていく。